

Exposición de Etiquetas de Arte Paisatges Picassians

— Pintores genios y arte japonés —



開催報告書

パイサジェス・ピカシアンズ アートラベル展
— 天才画家と並ぶ日本芸術 —

主催: 国際芸術文化振興協会 (Global Art and Culture Association - GACA)

パブロ・ピカソとカタルーニャ

ピカソとカタルーニャには、芸術的覚醒に関する逸話があります。ピカソは、療養中にカタルーニャ地方のHorta de Sant Joanですごしました。この静かな環境で、ピカソはこれまでの美術教育に満足できていないことに気づき、17歳で学校をやめる大きなきっかけとなりました。

また、パリで活躍するようになった後、1909年、恋人フェルナンド・オリビエと共に再びHorta de Sant Joanを訪れました。この時、若き日に過ごした場所を、自身の確立した手法であるキュビズムを用いて描き、カタルーニャでの経験がその後の芸術に大きな影響を与えたと伝えられています。

伝統と前衛の出会い

当時、バルセロナでは「モデルニスモ」と呼ばれる芸術運動が流行しており、ピカソは前衛的なアーティストたちが集まるカフェレストラン「Els Quatre Gats (Els 4GATS)」に頻繁に通っていました。ここで、それまで描いていた家族の肖像画とは異なる、社会の現実を描いた作品を制作し始めました。

本展覧会は、ピカソの芸術を語る上で欠かすことのできないカタルーニャ州Horta de Sant Joanにて、ピカソの愛したワインとともに日本代表芸術作品のお披露目をいたしました。

■会期・会場

2025年11月7日～9日（3日間）

（レスピニェスデルコンベント）

LES VINYES DEL CONVENT内
特設ギャラリー

■主催

国際芸術文化振興協会（GACA）

■後援・協力

LES VINYES DEL CONVENT

日西芸術協会

カタルーニャワイン連盟



アートラベル展 2025.11.7-9

ワイナリー様からの粋なサプライズで幕を開けたアートラベル展。

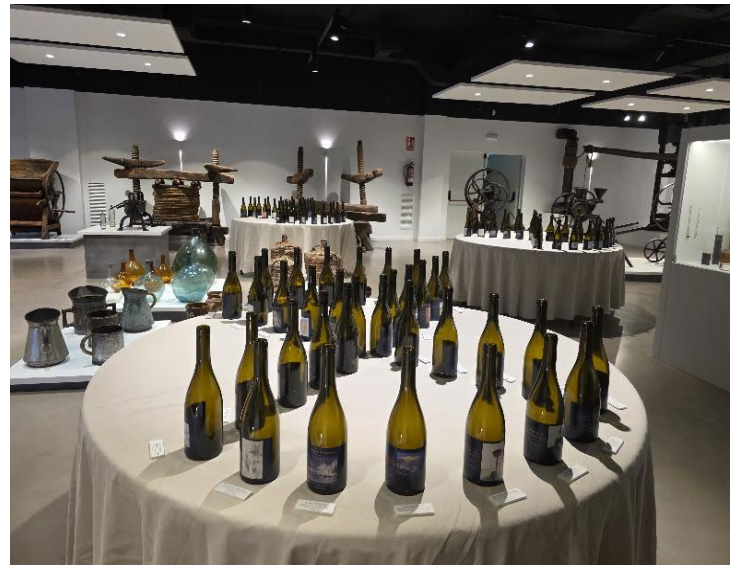
当初予定されていた会場は、ワイナリー内2階のオープンスペース。景色は良いですが、普段はパーティなどの時に使用するため、ワイナリーのツアーでは通らない場所でした。

しかし、弊社スタッフが現地に着くと、開口一番「オーナーから特別な許可が出たので、ワイナリー内の博物館(200年以上続くワイン造りの歴史がつまった場所)に展示するのはいかがですか。」と担当をしていただいた方からご提案がありました。

実際に室内に入ると、そこには言葉はなくとも歴史を語る、貴重な品々がスポットライトに輝いていました。芸術作品も、つくり手の想いを鑑賞者に伝える、そんな素敵なお巡り合わせに心が踊りました。

この会場は、ワイナリーの入り口から隣接し、ツアーのお客様も必ず通る場所です。

実際に、会期中には地域の方だけでなく、多くの観光客の方にもご覧いただくことができました。なかにはワインボトルを手に取り、技法や意味などを細かく質問される方もいらっしゃいました。





会期2日目、300年以上続くワイナリーのファーストブランドでもあるパイサジェス・ピカシアンズ（オレンジワイン）に、世界で初めて日本人アーティストの作品がアートラベルとして起用されたことは、歴史的価値のある文化交流として、立食パーティーが開催されました。

開催地Horta de Sant Joanに住んでいる方に向けて、本展のために特別醸造されたオレンジワインや山羊チーズなどとともに、日本芸術を楽しんでいただきました。

1本1本丁寧に自然の恵みとともにつくられ、気持ちのこもったワイン、そして、日本人アーティストが魂をこめたアート作品。時代や国境を越えた、この出会いが織りなすハーモニーによって、人々の心が結びつき、両国の友好関係を紡ぐ歴史の1ページとして刻まれたのではないのでしょうか。



特別収蔵

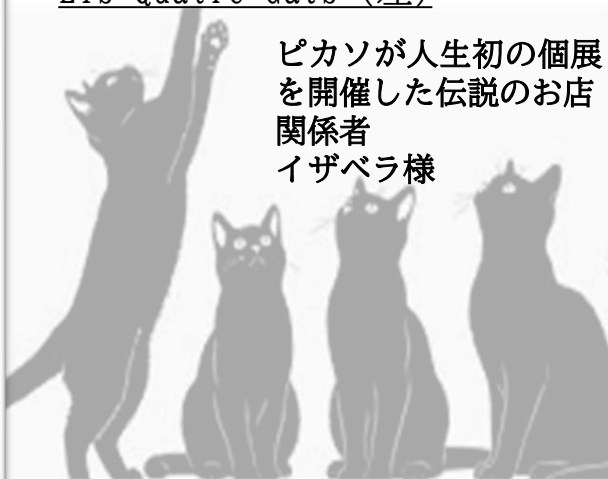
LES VINYES DEL CONVENT(右)

本展ワインを醸造する
200年以上の歴史ある
ワイナリー次期オーナー
ジル様



Els Quatre Gats (左)

ピカソが人生初の個展
を開催した伝説のお店
関係者
イザベラ様



Asociación de Bellas Arte de Málaga (右)

ピカソの生誕地、アンダルシア州
マラガに所在する美術協会
理事
モンセラート様



結びに

このたび、アーティストの皆様が表現された素晴らしい作品が、ピカソワインとして知られるパイサジェス・ピカシアンズのアートラベルとして、世界で初めて起用されたことは、あらためて日本芸術が世界に認められた瞬間であったと確信しております。

ご来場された方の声を聞くと、「この色使いはあまり見ない」「表現の方法が日本独自のよう気がする」など、文化の違いや物事の捉え方の違いから、私たちとは異なる着眼点があることにあらたな気づきをいただきました。

そして、LES VINYES DEL CONVENTのオーナー様からは、ワイン造りに対する情熱やこだわりなどをお話いただきました。その中で「わたしたちは商業用の大量生産は行わない。なぜならば、時間や手間がかかったとしても、1本1本丁寧に妥協せず、ワインを手にとった人に、味だけでなく作り手の想いを伝えたい」と仰っておりました。この言葉は、芸術家の方が語ったものではないかと錯覚してしまうほど、共通する部分があり、本展における日本芸術との出会いは、偶然ではなく、必然だったのではないのでしょうか。

最後になりますが、本展覧会にご賛同いただきましたアーティストの皆様、LES VINYES DEL CONVENT関係者の皆様、ご来場いただいた皆様、開催にあたりご支援・ご協力いただいた全ての皆様に心より御礼申し上げます。

